

豊岡市の新ロゴマークが誕生しました！

豊岡市制20周年記念式典の後、採用デザインの応募者である加賀直樹さん、選定委員会委員とデザインリファイン*を担当した徳田祐司さん(株式会社カナリア)、門間市長の3人で新ロゴマークについての座談会を行いました。

※既存のデザインをより良く磨き上げる作業



▲市ホームページ
(座談会)

《問合せ》経営企画課 ☎21-9022

■デザインに込めた思い

(採用デザイン応募者 加賀直樹さん)

「実は、妻が豊岡出身で、十数年前、妻の実家に結婚のあいさつに向かう道中ものすごくドキドキしていたんですが、巢にたたずむ一羽のクウノトリの姿にふっとその緊張が和らいだのをよく覚えてます。結婚後も地域の人たちは『直樹さん、直樹さん』と呼んでいつもあたたかく迎えてくれて。皆さんからいただいた気持ちにこのデザインを通して恩返ししたいという思いが一番強かったです。」



▲加賀さん

■ロゴマーク制作の裏話

「原案をより良い形に磨き上げるため、最後の最後まで議論されたのが“目”でした」と徳田さんが話すと、市長と加賀さんも共感するように笑い声があがりました。原案ではクウノトリに目が描かれており、その愛らしい姿は選定時のコメントでも「可愛い」と評判で、見た人の心をつかむチャームポイントの一つでした。「率直に可愛すぎるな…と(笑)。将来にわたり長く使用できる耐久性と、あらゆる場面で誰もが使える汎用性^{はんようせい}を高めるため、加賀さんの意図を尊重しながらリファインを実施しました」と徳田さん。

完成したロゴマークについて加賀さんは「目を描

かないことで見る人によって笑っているかもしれないし、休んでいるかもしれないし、こうして表情の捉え方も変わるのがおもしろいなど。より末永く使ってもらえる洗練されたデザインにさせていただいて、とてもうれしかったです」と話します。



▲徳田さん

■ロゴマークの活用

ロゴマークは市内小中学生や高校生にステッカーとして配布する予定です。門間市長は「まち中にこのロゴマークがあふれることで“いのちへの共感に満ちたまちづくり”を市民の皆さんと共有でき、みんなで同じ方向を目指して豊岡市としてさらにステップアップしたい」と締めくくりました。
[執筆：田中里佳(地域おこし協力隊)、写真：トモカネアヤカ]



▲左から 徳田さん、加賀さん、門間市長

■ロゴマークについて



豊岡の暮らしとともにあるクウノトリが静かに羽を休める姿。卵をあたため、命を育むクウノトリに、豊岡が大切に守り育ててきた歴史や伝統を未来へつないでいく思いが重ねられています。

■ロゴマーク選定の過程

- 1 一般公募
- 2 第1回選定委員会で候補作品10点を選定
- 3 市民投票を実施
- 4 第2回選定委員会で採用作品を選定
- 5 デザインリファインを実施
- 6 第3回選定委員会でロゴマークを決定



▲市民投票(シール投票)の様子